



## VIM コネクタの管理

---

- [VIM コネクタの概要 \(1 ページ\)](#)
- [新しい VIM コネクタの作成 \(2 ページ\)](#)
- [既存の VIM コネクタの使用 \(2 ページ\)](#)
- [VIM コネクタの更新 \(4 ページ\)](#)

### VIM コネクタの概要

ETSI API は、LCM 操作の処理中に VIM コネクタを作成するか、既存のコネクタを使用します。

NFVO からの付与応答または LCM 操作要求は、新しい *VimConnectionInfo* を *VnfInstance* に提供します。LCM 操作の処理中に、ETSI は新しい *VimConnectionInfo* を ESC の VIM コネクタと同期します。

*VnfInstance* に同じ ID を持つ既存の *VimConnectionInfo* がない場合、*VimConnectionInfo* は新規です。LCM 要求の一部として任意の *VnfInstance* に保存されている既存の *VimConnectionInfo* ID と一致する、指定された *VimConnectionInfo* は、既存のコネクタを使用し、新しい要求で送信された変更を無視します。

ESC は、一致する VIM コネクタが使用できない場合にのみ、新しい VIM コネクタを作成します。

ETSI API では、VNF 情報の変更操作により、既存の *VimConnectionInfo*、および関連付けられた VIM コネクタのみを更新できます。

NFVO からの付与は、各リソースの *vimConnectionId* を指定します。この値は、各リソースのロケータを作成するための *VimConnectionInfo*、および関連付けられた VIM コネクタを識別します。VIM 固有の *VimConnectionInfo.accessInfo* プロパティは、ロケータの追加プロパティとして設定されます。

OpenStack の *VimConnectionInfo* :

```
{
  "id": "435456",
  "vimType": "OPENSTACK_V3",
  "interfaceInfo": {
```

```

        "endpoint": "https://10.18.54.42:13001/v3/"
    },
    "accessInfo": {
        "username": "admin",
        "password": "bmKQJtyDrbPFnJT8ENdZw2Maw",
        "project": "cbamns0",
        "projectDomain": "Default",
        "userDomain": "Default",
        "vim_project": "cbamns0"
    }
}

```

vCloud Director の *VimConnectionInfo* :

```

{
    "id": "435456",
    "vimType": "VMWARE_VCD",
    "interfaceInfo": {
        "endpoint": "https://10.85.103.150"
    },
    "accessInfo": {
        "username": "admin@cisco",
        "password": "bmKQJtyDrbPFnJT8ENdZw2Maw",
        "vim_project": "cbamns0",
        "vim_vdc": "vdc1"
    }
}

```

## 新しい VIM コネクタの作成

ETSI LCM の操作中、ESC は各 *VimConnectionInfo* を既存の VIM コネクタレコードと照合します。既存の VIM コネクタが使用できない場合、ESC は新しい VIM コネクタを作成します。

*VimConnectionInfo.vimId* が指定されている場合、この値は新しい VIM コネクタの ID として使用されます。*VimConnectionInfo.vimId* が指定されていない場合、新しい VIM コネクタの ID が生成され、この値も *VimConnectionInfo.vimId* として設定されます。

既存の VIM コネクタを使用するには、[既存の VIM コネクタの使用 \(2 ページ\)](#) を参照してください。

## 既存の VIM コネクタの使用

ETSI LCM 操作中、ESC は、VnfInstance に保存された、一致する ID を持つ既存の *vimConnectionInfo* を確認します。

既存の VIM コネクタは次によって検出されます。

- *VimConnectionInfo.vimId* (指定されている場合) を VIM コネクタの ID と照合します。
- *VimConnectionInfo* の VIM 固有のプロパティを VIM コネクタと照合します。
  - OpenStack
    - vimType

- `interfaceInfo.endpoint`
  - `accessInfo.project`
- 
- vCloud Director
    - `vimType`
    - `interfaceInfo.endpoint`

一致する VIM コネクタが見つかり、`VimConnectionInfo.vimId` が設定されていない場合、`VimConnectionInfo.vimId` が VIM コネクタの ID に設定されます。

NFVO が `VimConnectionInfo` に `accessInfo` を提供して、接続プロパティの一部を指定する場合、次のキーを使用して VIM コネクタを設定します。

#### Openstack

- `username`
- `password`
- `project`
- `projectDomain`
- `userDomain`
- `vim_project`

#### vCloud Director

- `username`
- `password`
- `vim_project`
- `vim_vdc`

ETSI の仕様では、`accessInfo` 属性の一部として使用するキーを指定していません。統合しやすくするため、NFVO が異なるキーを使用する場合、プロパティファイルを使用して、サードパーティキーから ESC が理解できるキーへのマッピングを指定できます。

```
mapping.vimConnectionInfo.accessInfo.username
mapping.vimConnectionInfo.accessInfo.password
mapping.vimConnectionInfo.accessInfo.project
mapping.vimConnectionInfo.accessInfo.projectDomain
mapping.vimConnectionInfo.accessInfo.userDomain
mapping.vimConnectionInfo.accessInfo.vim_project
mapping.vimConnectionInfo.accessInfo.vim_vdc
```

新しい VIM コネクタを作成するには、[新しい VIM コネクタの作成 \(2 ページ\)](#) を参照してください。

## VIM コネクタの更新

ETSI API は、[仮想ネットワーク機能の変更操作](#)を介して、既存の `VimConnectionInfo` と関連付けられた VIM コネクタを更新します。変更要求ペイロードの `VimConnectionInfo` は、`VnfInstance` に保存されている既存の `VimConnectionInfo` と比較されます。

一致する ID を持つ `VnfInstance` に保存されている既存の `VimConnectionInfo` が見つからない場合は、この `VimConnectionInfo` が `VnfInstance` に追加されます。

一致する ID を持つ `VnfInstance` に保存されている既存の `VimConnectionInfo` が見つかった場合は、その `VimConnectionInfo` が更新されます。`VimConnectionInfo` が変更され、それに関連付けられた VIM コネクタがある場合、その VIM コネクタも更新されます。

新しい VIM コネクタを作成するには、[新しい VIM コネクタの作成 \(2 ページ\)](#) を参照してください。